

第 1 部

序 論

I

計画策定の趣旨

館山市では、平成 13 年度からの 15 年間を計画期間とする「第 3 次館山市総合計画」に基づき、『輝く人・美しい自然 元気なまち館山』を将来都市像としたまちづくりを進めてきました。

その間、地方分権の進展や急速な少子・高齢化と人口減少、グローバル経済の冷え込みによる景気低迷、また、平成 23 年 3 月の東日本大震災発生による安全・安心への関心の高まりなど、社会経済情勢は大きく変化しました。

こうした状況の中、さまざまな課題を乗り越え、館山市が将来にわたって持続可能なまちづくりを行っていくためには、長期的な視点に立ち、これまで以上に重点的・効率的な行政運営が必要とされます。

そこで、新たな時代の流れや課題を十分に踏まえた上で、行政のみならず、まちづくりに関わるすべての人々が思いを一つにし、力を合わせて館山の魅力に磨きをかけ、希望を持ってまちづくりを進めていくための「道しるべ」として、平成 28 年度から平成 37 年度までの 10 年間で展望した「第 4 次館山市総合計画」を策定しました。



Ⅱ

計画の構成と期間

1. 計画の構成

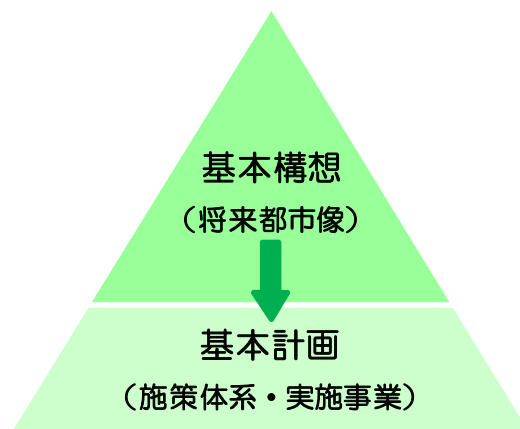
新総合計画は、「基本構想」及び「基本計画」から構成するものとします。

① 基本構想

長期的な視点に立ち、目指すべき将来都市像やその実現に向けての基本方針など、市政の長期的ビジョンを示すものです。

② 基本計画

基本構想を実現するための各分野の具体的な施策・事業を明示し、総合的・体系的にまとめたものです。



2. 計画の期間

新総合計画の期間は 10 年間とし、「基本構想」は平成 28 年度から 37 年度までの 10 年間、「基本計画」は前期と後期に分け、それぞれ 5 年間とします。

① 基本構想

10 年間（平成 28 年度～平成 37 年度）

② 基本計画

前期 5 年間（平成 28 年度～平成 32 年度）

後期 5 年間（平成 33 年度～平成 37 年度）

■ 計画の期間

H28年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
基本構想（10年）									
前期基本計画（5年）					後期基本計画（5年）				

1. 館山市の地勢

館山市は千葉県房総半島の南端に位置し、千葉市からは直線距離で約70km、東京の中心部からは100km圏にあります。

面積は110.15km²で、西は波穏やかな館山湾、南は黒潮おどる太平洋に面し、内陸部には緑豊かな田園や照葉樹林の丘陵が広がっており、年間平均気温は16℃以上と、冬でも花が咲き誇る温暖な気候に恵まれています。

南房総国立公園にも指定される31.5kmの変化に富んだ海岸線には、別名「鏡ヶ浦」とも呼ばれる館山湾越しに望む富士山や夕日の絶景、美しい砂浜が広がる平砂浦海岸など、数多くの景勝地が存在し、また、サンゴやウミホタルの生息域として、貴重な海洋生物資源を有しています。さらに、スキューバダイビングをはじめとしたマリンスポーツや夏の海水浴の適地としても知られています。

一方、半島性という地理的特性を有しながら、東京湾アクアラインと館山自動車道の全線開通により、都心からのアクセスは飛躍的に向上しました。また、「館山夕日栈橋(館山港多目的観光栈橋)」や交流拠点「“渚の駅” たてやま」の完成により、海の玄関口としての整備も進んでおり、『館山独自の魅力』を活かした海路・陸路の交流拠点としての発展が期待されます。



2. 館山市のあゆみ

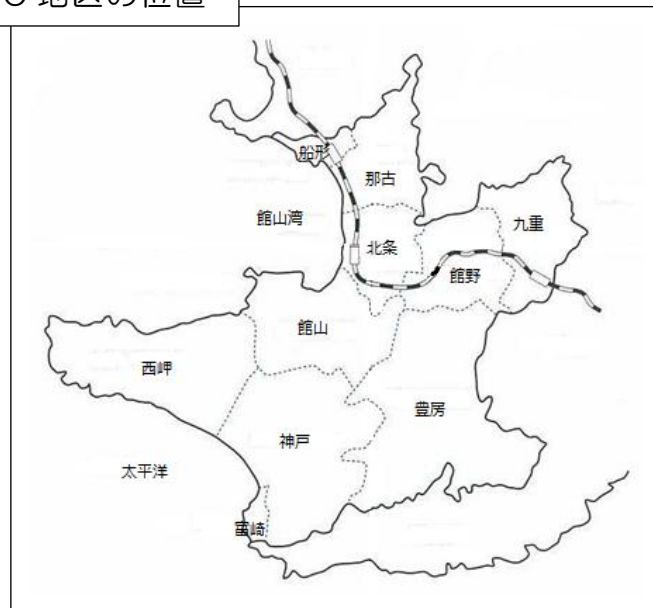
館山市は、館山北条町・那古町・船形町が合併し、昭和 14（1939）年に誕生しました。

その後、昭和 29 年（1954）年に西岬村・神戸村・富崎村・豊房村・館野村・九重村を合併して、現在の館山市となった経緯から、市内 10 地区は、その地理的・歴史的背景から、それぞれ固有の特徴を有しています。

■館山市の主なできごと

年	主なできごと
明治 11（1878）年	館山と東京の間に蒸気船の航路ができる
明治 30（1897）年	北条に安房郡の郡役所ができる
明治 34（1901）年	安房中学校（現在の安房高等学校）が開校する
大正 8（1919）年	安房北条駅（現在の館山駅）まで鉄道が開通する
大正 12（1923）年	関東大震災により大きな被害を受ける
昭和 5（1930）年	館山海軍航空隊ができる
昭和 14（1939）年	館山北条町・船形町・那古町を合わせて館山市が成立する
昭和 28（1953）年	警備隊（現在の海上自衛隊）館山航空基地ができる
昭和 29（1954）年	西岬村・神戸村・富崎村・豊房村・館野村・九重村が館山市に加わる
昭和 33（1958）年	南房総の海岸が国定公園に指定される
昭和 47（1972）年	特急「さざなみ」の運転が始まる
平成 8（1996）年	利根川からの安定した水道用水が送られてくるようになる
平成 9（1997）年	東京湾アクアライン開通
平成 19（2007）年	館山自動車道全線開通
平成 22（2010）年	館山夕日栈橋（館山港多目的観光栈橋）ができる

10 地区の位置



(参考) 館山市内 10 地区の沿革と概要

<p>○船形地区</p> <p>・古くから漁業が盛んで、江戸時代には生魚や薪などを江戸に送る廻船業で栄えました。カツオ船などに供給するえさイワシ漁業の発祥の地で、明治時代以降、房州うちわの生産地としても知られました。館山市有数の漁業基地がある漁港のまちです。</p>	<p>○那古地区</p> <p>・坂東三十三観音結願寺・那古寺の門前町として古くから栄え、明治時代に東京から蒸気船が往来するようになってからは海岸までまちが広がり、多くの人で賑わいました。南側は平地、北側は山地で稲作を中心に野菜や酪農、果樹栽培などが行われています。</p>
<p>○北条地区</p> <p>・鏡ヶ浦に沿った平野部に位置する市の中心地で、地名は、古代の土地区画制度「条里制」の名残です。明治時代以降、安房地域の政治経済の中心として発展し、大正時代の鉄道開通後、駅を中心に商店街や住宅地が広がりました。館山駅は、市の玄関口として多くの観光客を迎え入れています。</p>	<p>○館山地区</p> <p>・戦国時代の終わりに、里見氏が館山城の城下町として整備し、江戸時代以降港町として栄えました。昭和の初め、海軍航空隊が置かれ、軍都としての歴史をたどりしました。館山夕日栈橋や「“渚の駅” たてやま」の完成で、観光の中心地としての役割が期待されています。</p>
<p>○西岬地区</p> <p>・西岬は、東京湾に岬のように突き出していることから名付けられた地名で、岬の先端にある洲崎灯台が、東京湾と太平洋の境界となっています。半農半漁の地域で、大正時代から温暖な気候を活かした花づくりが盛んです。現在もストックやヒマワリなどの産地として知られ、沖合では定置網漁が行われています。</p>	<p>○神戸地区</p> <p>・神戸は「神に仕える家」のことで、安房神社を支える人たちの家があったということが地名の由来です。海沿いを「日本の道 100 選」に選ばれた房総フラワーラインが走り、レジャー施設が点在しています。砂防林によって守られてきた農地では、レタスなどの野菜や花の栽培が盛んに行われています。</p>
<p>○富崎地区</p> <p>・富崎の地名は、布良崎神社の祭神で安房開拓の祖とされる「天富命」と岬に位置する地域であることに由来しています。沖合は黒潮と親潮がぶつかるところで、明治時代にはマグロはえ縄漁で栄えました。青木繁が「海の幸」を描いた地で、安房地方の漁師が歌った「安房節」発祥の場所でもあります。</p>	<p>○豊房地区</p> <p>・稲作を中心に農業が盛んな地域で、多くの作物が実る豊かな土地であることに因み、明治時代に地名が付けられました。鎌倉時代には、鎌倉との深いつながりがあり、小網寺には数多くの文化財が残されています。全国でも有数の「センリョウ」の産地として知られるほか、観光いちご園には多くの観光客が訪れています。</p>
<p>○館野地区</p> <p>・古代には安房国分寺が置かれ、中世には里見氏が稲村城を築くなど、古代安房の中心地として栄えた地域です。地名は、平安時代の人「伴直家主」の館があったと言われる場所が「館野原」と呼ばれたことに因んでいます。観光農業として、いちご栽培が盛んで、1～4 月には多くの観光客が訪れています。</p>	<p>○九重地区</p> <p>・9 つの村が一緒になってできたということから、明治時代に地名が名付けられました。数多く分布する、中世のやぐらや仏像から、鎌倉とのつながりが深い豪族たちが活発に活動していたことが知られています。稲作や酪農のほか、梨の栽培が盛んに行われています。</p>

3. 館山市の産業

館山市内で働く従業者数は 24,349 人（2010 年国勢調査）で、近年は減少傾向にあります。

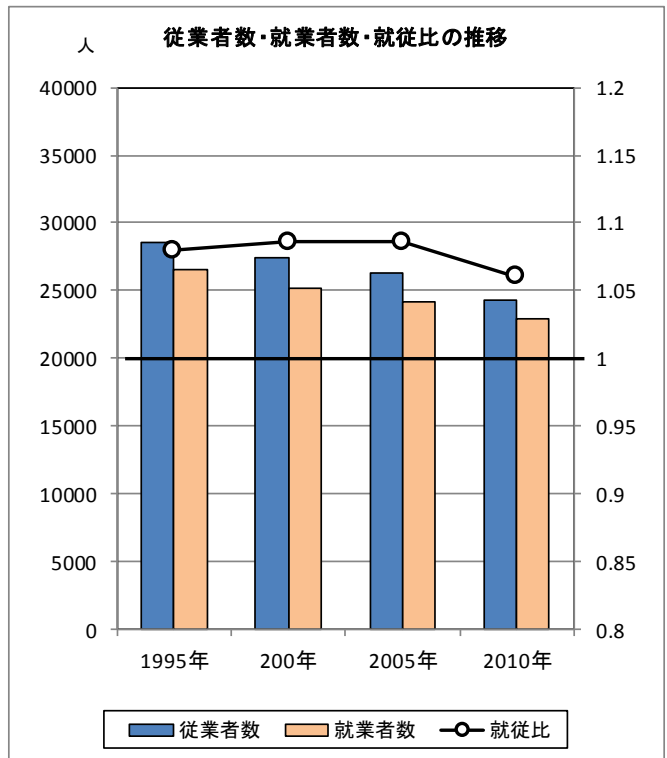
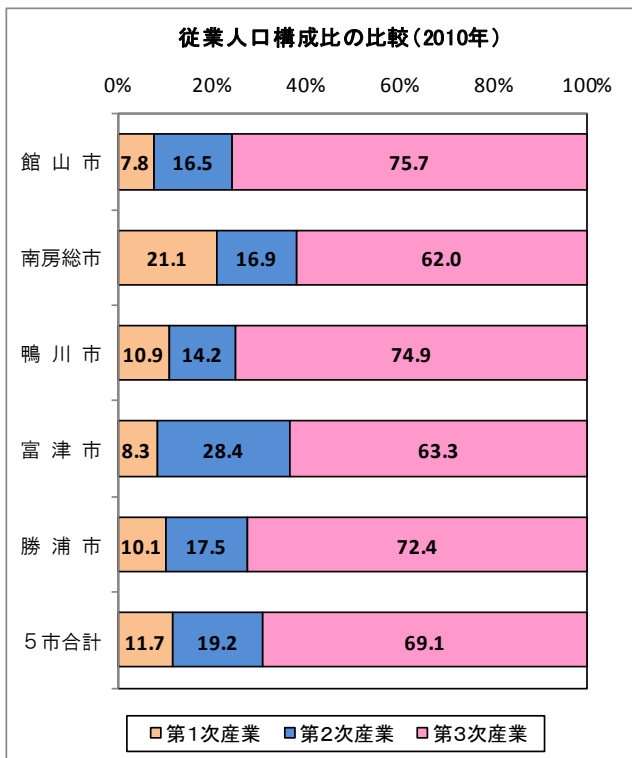
従業者を産業別でみると 75.7%が第 3 次産業に従事しており、第 1 次産業(7.8%)、第 2 次産業（16.5%）を大きく上回っています。産業別の構成比を近隣自治体と比較すると、第 3 次産業でやや高く、第 1 次産業で低い傾向がみられます。

事業所数は 2,924 箇所（2012 年経済センサス）で、やはり第 3 次産業が多く、全体の 85.0%を占めています。

第 3 次産業の中では、従業者数、事業所数とも小売業、飲食サービス業、宿泊業などの業種が多くなっていますが、近年では高齢化の進展を背景として医療・福祉関連分野も増加しています。

館山市では、「従業者数」（市内で働いている人、市民以外も含む）、「就業者数」（働いている市民、市外で働いている人も含む）、ともに減少傾向にありますが、「従業者数」はこれまでも常に「就業者数」を上回っています。そのため、「従業者数／就業者数」で算出される「就従比」は 1 より高い水準にあります。

このことは、昼間に市外からの流入人口を多く集めていることを意味しており、「館山市は近隣地域の中で拠点性が高いまち」と言えます。



(2010国勢調査)

今後のまちづくりを進めていく上で、留意すべき時代の潮流について整理します。

【人の動態の構造的変化】

1. 少子化と人口減少	<ul style="list-style-type: none"> ●少子化を背景として、日本の人口はすでに減少基調に転じています。出生率は低水準で推移していることから、この傾向は今後もさらに強まることが予想されます。 ●人口減少により、国内の消費需要の縮小と労働力人口の減少が考えられ、需給両面からの経済活動の低下が懸念されます。
2. 人口構成の高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の65歳以上老年人口は、昭和55年の1,065万人から平成22年の2,925万人へ、30年間で約3倍となり、今後も増加し続ける見込みです。 ●人口構成の高齢化がもたらす大きな影響としては、医療・福祉・介護ニーズの高まりによる社会保障関連経費の増大が挙げられます。

【人の意識の変化】

3. 安全・安心志向の高まり	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災以降、地震をはじめとする自然災害に対する国民の危機意識と地域の絆に対する重要性の認識は高まっており、防災対策の強化や地域防災体制の充実が求められています。 ●都市基盤や公共施設の老朽化問題が顕在化してきており、計画的な対応が必要です。 ●多発する凶悪犯罪や事故などを背景として、安全・安心への関心はますます高まっており、日常生活を脅かすさまざまな問題に対する総合的な危機管理体制の強化が求められています。
4. 価値観・ニーズの多様化	<ul style="list-style-type: none"> ●人々の価値観は「ものの豊かさ」よりも「心の豊かさ」を重視する傾向にあり、個性と多様性を尊重する意識が強まっています。 ●少子化や核家族化など、社会の変化と価値観の多様化を背景とし、従来型の地域コミュニティの衰退が懸念される一方で、中・高年層を中心に、社会貢献活動への参加意欲は高まっています。 ●このような複雑多様化する市民ニーズに対し、きめ細かな対応が求められています。
5. 市民参加・協働意識の高まり	<ul style="list-style-type: none"> ●価値観の多様化やライフスタイルの変化の中で、ボランティア活動をはじめとする社会貢献への意識が高まっており、まちづくりに積極的に参加する市民も増えています。 ●これからのまちづくりは、市民と行政とが対等なパートナーとして情報や課題を共有し、協働によるまちづくりを進めていくことが大切です。

【社会・経済動向の変化】

<p>6. 地球規模での 環境問題の進行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●温室効果ガスの増加による地球温暖化の進展は、異常気象の発生、食糧生産や生物多様性への悪影響などが懸念され、人類そのものの存続を揺るがす深刻な問題です。 ●環境負荷を軽減し、限りある資源に配慮した循環型社会への転換に向け、行政・事業者・個人など、それぞれが一層意識を高め、自らの立場で責任ある行動をとっていく必要があります。
<p>7. 情報化の進展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●情報通信技術（ICT）の飛躍的な進歩で、数年前には存在しなかった情報端末機器等により、リアルタイムでの情報発信が可能となり、日常生活に深く浸透し、情報のスピード化は日々進んでいます。 ●生活の利便性をもたらす情報化は、今後も一層進展すると思われますが、一方で、膨大な情報量の中から、必要かつ正確な情報の取捨選択が重要となり、その活用によっては、新たな課題や問題が生じることも予測されます。
<p>8. グローバル化の 進展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●経済活動のグローバル化や ICT の発達、交通・輸送手段の広域・高速化などに伴い、人・物・金・情報のボーダレス化が急速に進んでいます。 ●外国人観光客や居住者の増加も予想される中で、行政にもさまざまな分野におけるグローバル化への対応が求められます。
<p>9. 地方経済の停滞 (都市部との比較)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●国内人口が減少する中で、人口が都市部に集中する傾向がみられます。その一方で、多くの地方では人口減少と高齢化が進み、経済が停滞しています。 ●こうした中で、地方では、定住人口や交流人口の増加を図っていくとともに、ある程度の人口減少を前提としたまちづくりを模索していくことも求められています。

【自治体の方向性的変化】

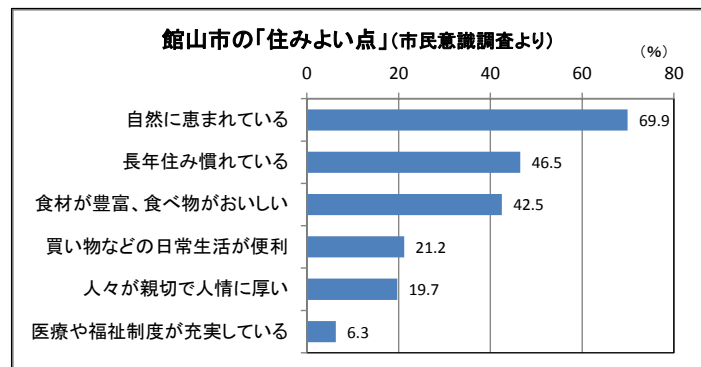
<p>10. 地域主権に 根ざした 自主・自立の まちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●国から地方へ権限や財源が移譲され、自治体の自主性・自立性が求められています。 ●自治体は、多様化する行政課題や市民ニーズに的確にこたえるとともに、地域の特色を活かしたまちづくりを行っていくため、より一層の創意工夫と、自らの責任と判断による行政経営能力が求められています。
--	---

館山市の主な特性は以下のとおりです。

1 自然が豊かである

東京湾アクアライン等を利用すれば、都心から1時間半という立地にありながら、美しい海と里山の緑があふれる自然豊かなまちで、市民もこの点を「住みよい」と感じています。

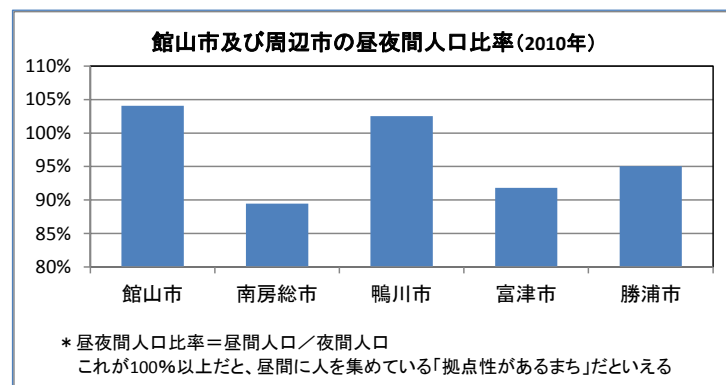
また、食材にも恵まれています。



2 地域の中での拠点性が高い

周辺市と比較して昼夜間人口比率が高く、市内に立地する大規模商業施設を中心に、昼間に市外から従業者を受け入れていることがわかります。

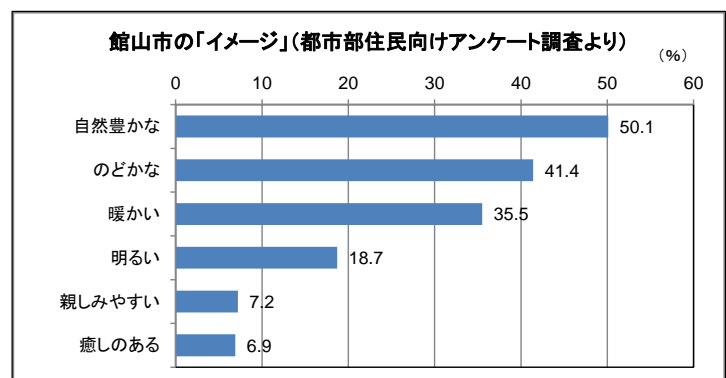
南房総地域の中で、「拠点性が高いまち」と言えます。



3 「のどかな」・「暖かい」といったイメージが強い

都市部住民向けアンケート調査では、館山市のイメージとして「自然豊かな」・「のどかな」・「暖かい」との回答が多くみられました。

移住定住の促進や交流人口の増加など、地域活性化の取組を行っていく上での強みだと考えられます。



館山市の主な課題は以下のとおりです。

1 人口減少・高齢化が進んでいる

市の人口は減少を続けており、人口構成上の高齢化も進んでいます。

「ひと」は地域経済・地域活動の主体であり、人口減少と高齢化の進展は地域社会に大きな影響を及ぼします。

■館山市の人口数・老年人口・高齢化率の推移

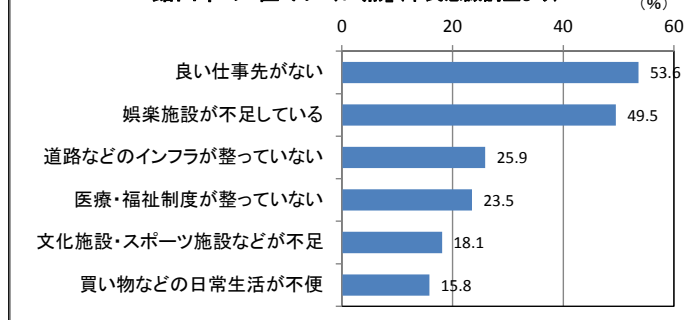
	平成2年 (1990年)	平成12年 (2000年)	10年間の 増減動向	平成22年 (2010年)	10年間の 増減動向
人口数	54,575	51,412	▲ 3,163	49,290	▲ 2,122
65歳以上 老年人口数	10,250	13,114	2,864	15,478	2,364
高齢化率	18.8%	25.5%	6.7%	31.4%	5.9%

2 雇用のミスマッチが生じている

市民意識調査では「住みにくい点」として「良い仕事先がない」が最も多くなっています。

一方で、地域での有効求人倍率は県全体の水準を上回っており、求職者が求める職種や条件等が地域の求人とマッチしていないことがうかがわれます。

■館山市の「住みにくい点」(市民意識調査より)



3 産業が停滞している

近年、大規模製造業の事業所が閉鎖されるなど、第2次産業を中心に市内の産業に停滞感がみられます。

市民意識調査でも、各種産業の振興を求める声が強く聞かれました。

■館山市の施策への満足度(市民意識調査より)

(全42分野の中で満足度が低い順)

1. 雇用の充実
2. 商業の振興
3. 工業の振興
4. 鉄道や生活バス路線の維持
5. 農林業の振興

